

2021年2月15日(月)

※ 昨年12月にお伝えしました通り、13日に東北から関東エリアは大きな地震に見舞われました

「これまで比較的平穏に人生を送ってきた人からすれば、混乱と危機に満ちた一生に一度あるかないかという厄介な年になるだろう」

変化を強いる元凶はコロナではない

くれぐれもお気をつけ下さい

① アメリカが壊れるII

⇒ 米議会予算局(CBO)は11日、中期の財政見通しを改定し、2021会計年度(20年10月~21年9月)の財政赤字が **2兆2580億ドル(約240兆円)**になると予測した

⇒ 新型コロナウイルス危機によって、20年9月の前回予測から25%増加する

⇒ 連邦政府の債務残高も **28.5兆ドル(約3000兆円)**となり、過去最大を更新しそうだ

⇒ CBOの試算には、バイデン政権が提案する **1.9兆ドルのコロナ対策は含まれていない**

⇒ 米議会は3月中旬までに追加の財政出動を決定する見通しで、財政赤字はもう一段膨らむことになる

⇒ 債務残高は **31年度には40兆ドル**まで膨らむ

⇒ 22年度の歳入は4兆ドル弱と前年度比14%も増えそう

⇒ それでも同年度の財政赤字は1兆560億ドルと危機前を上回り、10年後の31年度には赤字幅が1兆8830億ドルまで再拡大する

⇒ 財政悪化が中期的に止まらないのは、高齢化の影響が大きい

⇒ 先行きのリスクは金利上昇だ

⇒ CBOは23年時点の長期金利を1.5%と低めに予測するが、市場では21年中に同水準まで上昇するとの見方が強い

⇒ CBOの低金利シナリオでも、利払い費は21年度の3030億ドルから **31年度には7990億ドル**へと拡大する

⇒ 金利がさらに上振れすれば、いずれ利払い費は国防費(21年度で7330億ドル)を超えかねない

⇒ イエレン米財務長官は12日、オンライン形式で開いた主要7カ国(G7)財務相・中央銀行総裁会議で、新型コロナウイルス危機からの脱却へ「今こそ大胆な財政出動に踏み切るときだ」などと主張した

⇒ イエレン氏は米国が大型の追加財政出動に踏み切る考えを強調し、各国にも「G7として、現時点でできる追加的な経済支援策に注力すべきだ」などと訴えた

⇒ 米株市場に漂う楽観論

⇒ それに強く異論を唱え、今週、市場の話題となったのは元財務長官のローレンス・サマーズ氏だ

⇒ 4日と7日に相次いでワシントン・ポスト紙に寄稿し「**コロナ対策は規模が大きすぎ、インフレリスクを高める**」と批判した

⇒ **インフレが加速すれば「景気後退と失業率上昇を招き、軟着陸は難しい**」という

⇒ サマーズ氏が警告するように財政政策ならインフレが起きるのか

- ⇒ イエレン財務長官が強く主張する財政出動は、現状では昨年ほど必要がないと思われます
- ⇒ ここからの一手が方向性を誤らせる可能性が高いと感じます
- ⇒ 米国債は今年格下げに向かうと思います
- ⇒ 米国は特に4月以降急激にインフレに向かうと思います
- ⇒ 米10年国債利回りは、最初は緩やかに、その後急激に上昇に向かうと思います(現在1.21%)
- ⇒ 独立をして19年、この間の私のコメントはいつも少し(相当?)早く将来を予測していると思われます
- ⇒ アメリカは、①民主主義 ②株式市場 ③国債市場 の3つが今まさに壊れようとしているのです

【米10年国債利回り:3年】



② ポンド & 豪ドル

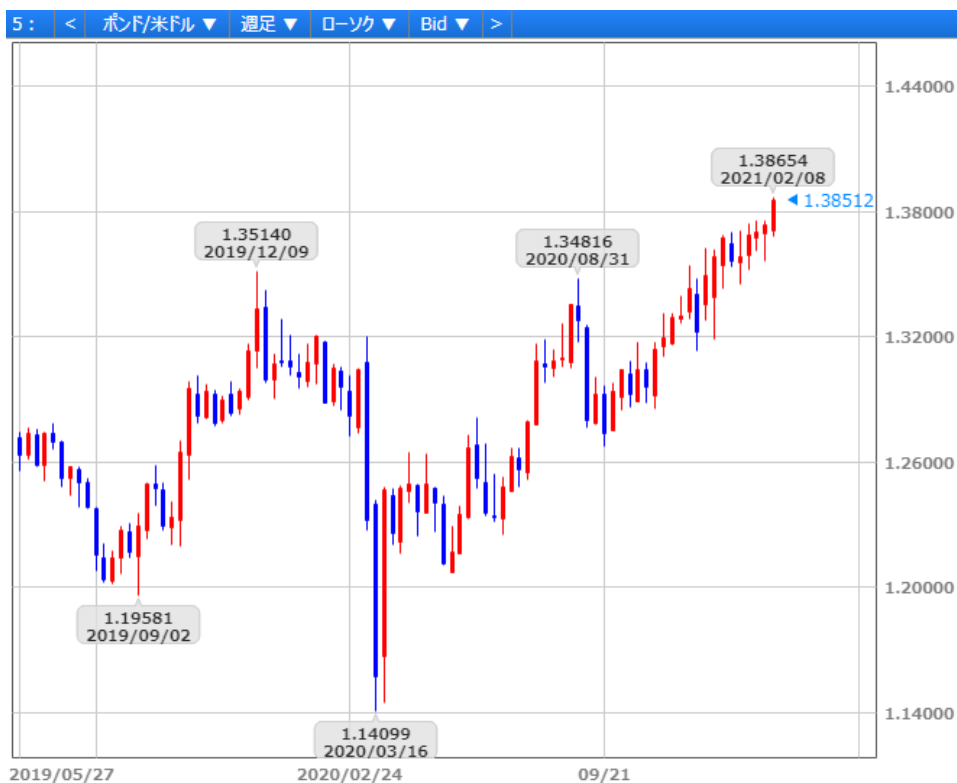
⇒ 1 ポンド=145.47 円と昨年 12 月 19 日の動画配信時から 6 円円安に

⇒ 1 豪ドル=81.47 円と昨年 12 月 19 日の動画配信時から 3 円円安に

【ポンド／円:週足】



【ポンド／米ドル:週足】



【豪ドル／円:週足】

